

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和元年6月21日現在

機関番号：32606

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2014～2018

課題番号：26284024

研究課題名(和文) 中近世絵画における古典の変成と再結晶化 話型と図様

研究課題名(英文) The Changes and Re-ChrySTALLIZATION of Classical Knowledge in Medieval and Modern Paintings: Narrativity and Structure

研究代表者

佐野 みどり (SANO, MIDORI)

学習院大学・文学部・教授

研究者番号：60178811

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 10,900,000円

研究成果の概要(和文)：国内外の中近世物語絵画の調査を進め、国内所蔵先では延べ27か所、国外ではアメリカ、イギリス、フランスを中心に20か所及び個人コレクション13件の訪問調査を行った。調査データは作品の基礎資料として研究協力者とともに検討を加え、公開研究集会において研究報告を行い、調査の成果を開示することに努めた。また、国内外の研究者を招聘して4回の国際シンポジウムを開催し、様々な媒体における古典の戦略と前近代日本のアイデンティティの問題、および近世造形における古典知の形成とその創造力について議論を深めた。これらシンポジウムや研究集会での報告に基づき『フレームの超域文化学』を編集した(2019年度末に公刊予定)。

研究成果の学術的意義や社会的意義

学術的意義としては、近世物語絵画における古典の問題について、中世的古典観の変容と古典権威の形成、地下文化人における古典受容の実態、お伽草子絵巻や上製奈良絵本における古典のフレーム、古典の価値システムが如何なる言説を作り上げ、如何なる境界を作り出すのかといった論点を深め、図書12件、雑誌論文20件、学会等発表22件の成果を挙げた事、また、社会的意義としては、資源生成(調査データの整理蓄積、トレース図や付属文書翻刻・校訂、35ミリフィルムデータの電子化)、研究成果還元(研究集会やシンポジウム、展覧会協力)、国内外の研究者ネットワークの形成(特に若手研究者の交流)が挙げられる。

研究成果の概要(英文)：I. Studies of pre-modern narrative painting works preserved in Japan and abroad; for this purpose, we visited 27 sites in Japan as well as 20 sites and 13 private collections abroad (US, UK, France, etc.). II. Examinations carried out, with our collaborators, on the information acquired by the studies above; organization of study meetings to make public the fruits of our investigations. III. Organization of 4 international symposiums to discuss with guest researchers on: -- strategy of using classical works in various categories of art, -- identity of Japan in the pre-modern era, -- formation of knowledge of the classic and its creativity in the activities of the plastic arts. IV. Edition of a book tentatively entitled "The Transdisciplinary Study of Frames", based on the reports of the study meetings and symposiums (publication of the book planned for the end of the year 2019).

研究分野：美術史

キーワード：美術史 近世物語絵画 古典知 古典権威 フレーム 盛安本源氏物語絵巻 源氏絵 お伽草子

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

前科研にあたる基盤研究(A)「大画面説話画の総合研究」(2010年-2013年、研究代表:佐野みどり)では、仏教説話画と掛幅縁起絵双方を視野に入れた作品調査研究を行い、調査画像のデータベース化、トレース図の作成、研究成果論文の発表、シンポジウムや研究会による中世の信仰と絵画に関する意見交換を重ねてきた。研究を進めていく中で、国内外に所蔵される未紹介の大画面物語絵作例を少なからず実見し、一望の視野に物語の時間を配列構成する〈物語の構造〉や原基としての〈話型〉が中世掛幅大画面説話画から近世の屏風絵へと、どのように継承されるのか、もしくは変容するのかなど問題意識を持つに至った。国外の作品に関しては、作品調査が及んでいない作例が多数残されており、引き続き実見調査を進め議論を深めていく必要を強く感じた。近世物語絵画研究は従来、源氏絵に関心が集中して来た為、特に『保元物語』『平家物語』『曾我物語』や『新曲』など幸若舞曲の作例への照射が必要であった。

よって、前科研の成果を継承しつつその進展として、近世大画面物語絵画研究において、従来、話型や図様伝統としていささか紋切り型に論じられてきた主題や図様の問題を原基の変成と再結晶化の問題として捉え直し、かつ近世源氏絵のみならず、軍記物語など多様な古典主題作例の調査研究を重ねることを目的に、当科研である基盤研究(B)中近世絵画における古典の変成と再結晶化 話型と図様 を開始した。

本研究における中世から近世前期を俯瞰する物語絵画研究の構想は、イメージの記憶(図像)とことばの記憶(物語テキスト)の交差、あるいは享受の文脈的型、造形の原基となる習俗や図像、そしてテキストの浸透など、前科研において、中世の掛幅縁起や仏教説話画を対象に扱ってきた研究関心と通底するが、〈古典知〉という枠組みを設定することで、近世への展開という発展的論点を明確にした。すなわち、テキストの変容、あるいは古典主題の再生、物語絵画の型の形成・定着と権威化の進展など、中世末から近世前期にかけての〈古典知〉の具体相、すなわち古典の規範性をいかなる戦略としてきたか、あるいは、信仰や文学の社会的な受容もしくは実践において、類比や連想の知的営為の仕組みが近世の造形にどのように再構築されるのかという問いへの探究である。

### 2. 研究の目的

大画面絵画の研究において障害となってきたのは、画像公開の面で、かろうじて主題が識別できる程度、もしくは典型的な場面のみという図録が一般的であり、収録作品の網羅性や細部が視認可能かといった精度の点で、大画面物語絵画の全貌を詳しく俯瞰できる大型の図録が公開されてこなかったことである。よって本研究では、これまでの研究活動によって蓄積した作品調査のデータをも利用しつつ、国内外の近世物語絵画の調査研究を進め、公開をはかることとした。画像データの共有に慎重な手順を踏みつつも調査成果の相互提示を進め、これらのデータを学術的に共有できるものとして広く提供することは、中近世文化研究の深化に資するところ大であろう。科研活動の中で獲得する成果の具体的な還元は責務であると考え、大型図版による作品紹介の出版を前提に、調査データの蓄積を図った。

研究代表者は前科研においても、できうる限り科研活動を広く関心ある方々へ開くことを前提に研究統括をおこなってきた。そのような、これまでの調査や研究会等で培ってきた人脈と議論の深化、国際的協力体制の強化等、前科研を継承発展させつつ、新たに古典知という考察の枠組みを押し出し、研究課題「中近世絵画における古典の変成と再結晶化」を諸学協働の研究会や国際シンポジウムの開催を通じて、領域を超えた人文研究の可能性の発信に努めた。国内外の幅広い世代の研究者を招き、中堅、若手世代の研究者に発表の場を提供し研究者間のネットワークの構築を促し、方法論や視点の面での活発な交流、すなわち日本文化研究の活性化をも目指した。

なお、本課題では連携研究者や研究協力者として、美術館、博物館の学芸員の方々に多く参加いただいている。基礎研究積み上げの成果を、図書やシンポジウムで開示するのみならず、展覧会の開催につなげ、中近世物語絵画を広く世に紹介し、中近世の社会と文化への理解を深めていくことを目指した。そのような社会還元への志向も、当科研の特色である。

### 3. 研究の方法

本課題の計画・方法上の特色は、A.悉皆的調査、トレース図・文献史料翻刻・校訂等周辺資料活用等による資源生成、B.国内外研究集会や展覧会、図録等、公開・公開を視野にいれた研究成果の還元である。研究計画の実行は、次の四段階に構成した。

基礎調査 = 作品調査と獲得したデータの検討と集積

研究発表

a.国内研究集会、b.海外ワークショップ、c.国際シンポジウム

アウトプットとしての展覧会協力

研究論集の刊行

以下、研究活動を具体的に俯瞰する。

## 基礎調査の蓄積

国内外の調査を精力的に行うとともに、これら作品調査に歴史資料の解析を加えつつ、画面の観察・読解を共同で進めた。必要な場合は、a. 精細・高品質（現状模写にちかい白描図）トレース図とb. プレゼンテーション性の高い説話概要の描き起こし図（平易な単線見取り図）を作成した。また、これまで蓄積した調査画像データのうち、35ミリフィルムによるデータの電子化も喫緊の課題であり、前科研で蓄積した作品調査のフィルム画像データ、及び研究代表者のもとに寄託された先輩研究者のフィルム画像の変換作業も進めた。これらデジタル画像とフィルム画像データを統合して、調査データを積み上げ、研究者間での共有をはかった。

## 作品研究の報告と古典知に関する議論の深化

研究分担者と連携研究者を中心に、個別作品の調査研究を踏まえたモノグラフ的研究を蓄積していき、公開研究集会で、作品調査成果として、順次報告し、研究会メンバー（研究分担者、連携研究者、研究協力者、大学院生等）で検討を加えた。隣接諸学との共同討議を積極的に目指し、関連する文献類の収集と翻刻・校訂を進め、また、図様や説話内容を理解・提示するためのトレース図の作成などを研究手法に位置づけるための、方法的練磨も探求した。当課題期間中に研究者のための国際シンポジウム「Frames and Framings in Transdisciplinary perspective」、の3件、日本美術に関心のある学生を対象とした国際シンポジウム「世界の中の日本美術 過去から未来へ」（中島記念国際交流財団助成）1件を開催し、さらに、ミシガン大学で日本史学研究所の大学院生とのワークショップも行い、ジャンルを横断する若手研究者交流の場を持った。

また、2016年度にフランス・INALCOのエステル・ポエール教授の協力のもと、フランスで調査した幻の源氏物語絵巻・新出夕顔断簡に関して、詳細を『國華』1479号に掲載し、注目を集めている幻の源氏物語絵巻（盛安本源氏物語絵巻）の新たなデータを公開した。

## 展覧会の企画・実施に関する協力

当科研開始当初に、ハーバード大学のメリッサ・マコーミック教授より、2019年春に開催されるメトロポリタン美術館での源氏絵展についての協力依頼があった。中近世物語絵画の作品調査・解析を行ってきた実績をもとに、展示作品の調査や紹介に関する協力をを行い、展覧会図録「THE TALE OF GENJI」に寄稿した。また、会期中の4月13日、14日に行われたコロンビア大学パーク研究所主催のシンポジウムにおいて研究発表を行い、国内外の研究者と活発な意見交流ができた。その他、研究分担者の藤原重雄は、サントリー美術館などの展覧会企画に際して文献部門に協力を重ねてきた。

## 研究論集『フレームの超域学』の刊行

に記載した国際シンポジウム「Frames and Framings in Transdisciplinary perspective」のプロシーディングスや研究集会の研究発表を取捨選択し、そこに新たな依頼原稿を加えた研究論集『フレームの超域学』の刊行準備を進めた。出光出版助成を受けることも決まっており、課題期間内の刊行はかなわなかったが、現在編集作業中である。

## 4. 研究成果

年次別、研究活動（調査、シンポジウム等）の実施状況は下記のとおりである。

### 26年度：

国内作品調査及びそれに伴う研究会（6月20日奈良学セミナー）

報告者：津田卓子（名古屋市立博物館）、相澤正彦（成城大学）、藤原重雄（東京大学史料編纂所）

国際シンポジウム「Frames and Framings in Transdisciplinary perspective」（3月5日・6日学習院大学）研究報告者：メラニー・トレーデ・ハイデルベルク大学教授、敦煌研究院・趙声良副院長を招聘し、他17名）

国内調査：名古屋市博物館、根津美術館、清水寺、静岡県立美術館、京都国立博物館、出光美術館、岡田美術館、九州国立博物館ほか

海外作品調査：おもにアメリカ西海岸・中西部の美術館および個人コレクションの調査（シアトル美術館、サンフランシスコアジア美術館、ロサンゼルス郡立美術館、サンアントニオ美術館、Getty美術館、プライスコレクション、ラリー・エリソンコレクション等）

### 27年度：

国内研究会（1月10日学習院大学）

報告者：高岸輝（東京大学）、三戸信恵（山種美術館）、小平美香（学習院大学）、水野さや（金沢美術工芸大学）

国内調査：MIHO MUSEUM、東京国立博物館、奈良国立博物館、京都国立博物館・琵琶湖文化館、大阪市立美術館、今治市河野美術館、東京芸術大学ほか

### 28年度：

国内研究会(3月26日学習院大学)  
報告者:森道彦(京都文化博物館)、泉万里(静岡県立美術館)  
国際シンポジウム「世界の中の日本美術 過去から未来へ」(中島記念国際交流財団助成)  
(7月29日東京国際交流会館)  
国際シンポジウム「Frames and Framings in Transdisciplinary perspective」(7月31日、8月1日学習院大学) 研究報告者:マホトカ・エヴァ・ライデン大学准教授を招聘、他16名)  
国内調査:岡山県立美術館、林原美術館、岡山シティミュージアム、福井県立美術館他  
海外調査:米国調査(ヒューストン美術館、ダラス美術館、キンベル美術館、カンザス美術館、ミネアポリス美術館、ネルソンアトキンス美術館、デトロイト美術館、クリーブランド美術館、シカゴ美術館、シンシナティ美術館、インディアナ美術館、ハーバード大学美術館、ニューヨークパブリックライブラリー、フリア美術館、個人コレクター他)、欧州調査(ボナムス、個人コレクター)

## 29年度:

原口科研合同研究会(3月3日学習院大学)「本法寺法華経曼荼羅」の原寸大高精細画像閲覧。  
報告者:須藤弘敏(弘前大学)、高宮なつ美(大分県立博物館)、藤原重雄(東京大学史料編纂所)  
国際シンポジウム「Frames and Framings in Transdisciplinary perspective」(3月26日、日本台湾交流協会台北事務所)  
報告者:佐野みどり(学習院大学)、土谷真紀(お茶の水女子大学)、松本祐未子(学習院大学)、フランク・フェルテンズ(フリア美術館)、増記隆介(神戸大学)、青木慎一(立教大学)、梁蘊嫻(元智大学)、蕭涵珍(中興大学)  
これに付随して、3月24日優美飯店で若手シンポジウムを開催し、6名の研究報告を行った。  
国内調査:共立女子大学、睦沢町立歴史資料館、高滝神社、玉前神社ほか  
海外調査:米国(ハーバード大学美術館、ボストン美術館、フリア美術館、個人コレクター他)

## 5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計20件)

- 1) 佐野みどり「盛安本源氏物語絵巻をめぐる」(『國華』1479号、2019年1月、pp.29-46)  
\*査読有
- 2) 藤原重雄「〔第七櫃絵目録〕続考 絵櫃の貸借に関する史料」(『画像史料解析センター通信』79、2017年10月、pp.10-13)
- 3) 藤原重雄「泊浦・道智上人周辺の夢語り 市屋道場金光寺蔵『仏説目連救母経』紙背の起請文」(『年報中世史研究』42、2017年5月、pp.55-74) \*査読有
- 4) 藤原重雄「仁和寺所蔵『絵目録』断簡について」(『画像史料解析センター通信』77、2017年4月、pp.4-14)
- 5) 藤原重雄「蓮華王院宝蔵の「大嘗会御禊行幸絵」」「紀貫之自筆本『土左日記』の流転」「中世の絵目録いろいろ」作品解説14件(サントリー美術館編『絵巻マニア列伝』2017年3月)
- 6) 佐野みどり「秋冬花鳥図屏風」(『國華』1456号、2017年2月、pp.24-28) \*査読有
- 7) 藤原重雄「新刊紹介 奈良国立博物館・東京文化財研究所編『大徳寺伝来五百羅漢図』」(『史学雑誌』125-11、2016年11月、pp.101-103)
- 8) 藤原重雄「書評 原口志津子『富山・本法寺蔵法華経曼荼羅図の研究』」(『中外日報』2016年8月26日)
- 9) 藤原重雄「尼浄阿一筆書写大般若経の転読料所と安置空間」(『説話文学研究』51、2016年8月、pp.126-135) \*査読有
- 10) 藤原重雄「春日大社着到殿の規模変遷 春日宮曼荼羅の景観年代に関して」(『東京大学史料編纂所附属画像史料解析センター通信』72、2016年1月、pp.6-11)
- 11) 藤原重雄「画像資料と歴史研究・叙述・教育」(『岩波講座 日本歴史』別巻二・史料論、岩波書店、2015年12月、pp.125-152)
- 12) 藤原重雄「東寺本『弘法大師行状絵』の灌頂行列図」(久留島浩編『描かれた行列 武士・異国・祭礼』東京大学出版会、2015年10月、pp.299-319)
- 13) 藤原重雄「作品解説」6点等(『中世の人と美術』大和文華館、2015年9月、pp.29,35,53-56)
- 14) 藤原重雄「隆兼筆の「絵本」を所持する隆章 一通の紙背文書から」(『東京大学史料編纂所附属画像史料解析センター通信』70、2015年7月、pp.10-15)
- 15) 藤原重雄「図版解説」9点(加須屋誠責任編集『日本美術全集』8 中世絵巻と肖像画(鎌倉・南北朝時代) 小学館、2015年6月、pp.237-241,260)
- 16) 藤原重雄「洛中洛外図屏風の祖型を探る 京中図を描く視点」(京都文化博物館編『京を描く 洛中洛外図の時代』、2015年3月、pp.226-235)
- 17) 佐野みどり「源氏絵の世界 古典の再結晶化をめぐる」(『文化情報学』第11巻第1号)

通関 14 号、2015 年、pp.23-29)

18) 藤原重雄「兵庫県立歴史博物館所蔵の「〔第七櫃絵目録〕 宝蔵絵の可能性」(『東京大学史料編纂所附属画像史料解析センター通信』66、2014 年 7 月、pp.16-19)

19) 佐野みどり「松桜図屏風」(『國華』1422 号、2014 年 4 月、pp.27-33 頁) \* 査読有

20) 佐野みどり「掛幅縁起絵の世界 中世日本の信仰と絵画」(『皇學館論叢』第 47 巻 4 号、2014 年、pp.1-30)

〔学会発表〕(計 22 件)

1) 佐野みどり「絵巻の空間と時間」(国文学研究資料館古典籍セミナー「描かれた物語 絵巻研究へのアプローチ」2019 年 2 月 26 日、北京外語大学)

2) 佐野みどり「中近世絵画における音の風景」(シンポジウム「和漢の故事人物と自然表象 16,7 世紀の日本を中心に」2018 年 12 月 23 日、24 日、東京大学)

3) 佐野みどり「源氏絵の世界 響き合うイメージと多様な形式」(第 31 回源氏物語アカデミー、2018 年 10 月 20 日)(招待講演)

4) 佐野みどり「お伽草子絵巻の魅力 心なき身と風月の道」(名古屋大学頭脳循環プログラム：国際的な活躍が期待できる研究者の育成事業「絵巻・絵本研究を中心として」、2018 年 9 月 23 日)(招待講演)

5) 加須屋誠 著者と語る(3)加須屋誠氏 - 『生老病死の図像学』を中心に - (East Asian Classical Studies: 東アジア古典学の次世代拠点形成 国際連携による研究と教育の加速 -、2018 年 7 月 27 日(金)、東京大学駒場キャンパス)

6) 佐野みどり「古典知 フレームとしての古典」("Frames and Framings in a transdisciplinary perspective : フレームの超域文化学 フレームとしての古典、2018 年 3 月 26 日、日本台湾交流協会台北事務所)

7) 佐野みどり "Image, Text, and Viewer" (BURKE CENTER Symposium: Movement and Materiality in Japanese Art, Keynote Lecture, 2018 年 3 月)(招待講演)

8) 佐野みどり「柳宗悦と学習院」(國華清話会講演、2018 年 2 月 19 日、日本民藝館本館)

9) 佐野みどり「待つと惜しむの美学 日本美術にみる季節」(日本カレンダー暦文化振興協会第七回定時総会講演、2017 年 8 月 26 日)(招待講演)

10) 佐野みどり「お伽草子絵巻の魅力 器物の妖怪、鼠の恋、雀の発心」(逸翁美術館開館 60 周年記念展講演会、2017 年 7 月 15 日)(招待講演)

11) 佐野みどり「白描物語絵の享受と造形 小絵を基軸として」(特別展「白描の美 図像・歌仙・物語」シンポジウム「白描画再考 日本絵画史におけるその意義」2017 年 2 月 19 日、大和文華館)(招待講演)

12) 佐野みどり「鳥獣人物戯画の謎」(特別展「京都高山寺と明恵上人 特別公開 鳥獣戯画」特別講演会、2016 年 10 月 9 日、九州国立博物館)(招待講演)

13) 佐野みどり「王朝物語と絵画」(第 81 回学習院大学史料館講座、2016 年 10 月 8 日、学習院大学)(招待講演)

14) 佐野みどり「<世界認識>と<古典知>をめぐって」("Frames and Framings in a transdisciplinary perspective II : フレームの超域文化学 II 世界認識と古典知"、科研基盤 B 「中近世絵画における古典の変成と再結晶化」、2016 年 7 月 31 日・8 月 1 日、学習院大学)

15) 藤原重雄「洛中洛外図屏風」成立の枠組み ("Frames and Framings in a transdisciplinary perspective II : フレームの超域文化学 世界認識と古典知" 2016 年 7 月 31 日・8 月 1 日、学習院大学)

16) 加須屋誠「臨終行儀 現世と来世の境界をめぐって」("Frames and Framings in a transdisciplinary perspective II : フレームの超域文化学 世界認識と古典知" 2016 年 7 月 31 日・8 月 1 日、学習院大学)

17) 佐野みどり「源氏絵の世界 古典の再結晶化をめぐって」(2015 年度(春学期)文化情報学研究科共通シンポジウム、2015 年 6 月 10 日、同志社大学)(招待講演)

18) 佐野みどり「フレームの遠近法」("Frames and Framings in a transdisciplinary perspective : 枠・枠組みの文化論" 2015 年 3 月 7 日・8 日、学習院大学)

19) 佐野みどり「源氏絵の世界」(源氏物語研究所・紫式部学会共催「源氏物語の小さな講座」、2014 年 11 月 1 日、鶴見大学)(招待講演)

20) 藤原重雄「中世の舞楽図・点綴 〔舞楽散楽図〕から宗達屏風のあいだ」(日本音楽史研究会第四回研究発表会、2014 年 10 月 19 日、上野学園大学)

21) 藤原重雄「描かれた京都：歴史学の立場から」(林原美術館開館 50 周年記念「描かれた都、開封と京都 清明上河図と洛中洛外図屏風に関するシンポジウム」2014 年 10 月 5 日、同館)

22) 佐野みどり「掛幅縁起絵の世界 中世日本の信仰と絵画」(第七回皇學館大學人文学会大会記念講演、2014 年 7 月 7 日、皇學館大學)(招待講演)

〔図書〕(計 13 件)

1) 加須屋誠『記憶の図像学 - 亡き人を想う美術の歴史 - 』(吉川弘文館、2019 年、257 頁)

2) 佐野みどり・小林忠・五味文彦・浅井和春(監修)『もういちど訪ねる日本の美 上・下』(山川出版社、2018 年、上 124 頁、下 118 頁)

- 3) 加須屋誠・黒川正剛・水野留規・早川美晶・山中由里子・古川攝一・田村正彦・西山克・瀬戸信行・木場貴俊『地獄への招待』(臨川書店、2018年、252頁(pp.137-167))
- 4) 佐野みどり監修『はじめてであう日本美術』1・2・3(教育画劇、2017年、各48頁)
- 5) 加須屋誠・山本聡美『病草紙』(中央公論美術出版、2017年、259頁(pp.87-172))
- 6) 加須屋誠・北澤菜月・上川通夫・岩井共二 展覧会図録『源信』(奈良国立博物館、2017年、328頁(pp.246-250))
- 7) 加須屋誠『天皇の美術史』第2巻「治天のまなざし、王朝美の再構築」(吉川弘文館、2017年、204頁)
- 8) 佐野みどり編『世界の中の日本美術 過去から未来へ』(学習院大学国際研究教育機構、2016年、32頁)
- 9) 加須屋誠(監修) 黒田智、谷口耕生、内藤栄ほか『日本美術全集』第8巻「中世絵巻と肖像画」(小学館、2015年、303頁(pp.6-7,170-186,228-229,232-236,243-245,262-264,292-296))
- 10) 加須屋誠『阪神・路大震災20年展 横尾忠則 大涅槃展』展覧会図録(横尾忠則美術館、2015年、118頁(pp.06-09))
- 11) 佐野みどり 河野元昭監修『別冊太陽 日本美術史入門』(平凡社、2014年、303頁(pp.71-120))
- 12) 加須屋誠『日本美術全集』第5巻「王朝絵巻と貴族のいとなみ」泉武夫・四辻秀紀・日高薫・三戸信恵・増記隆介・加須屋誠・藤田盟児(小学館、2014年、287頁(pp.203-215))
- 13) 藤原重雄『史料としての猫絵』(日本史リブレット79、山川出版社、2014年、108頁)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0件)  
取得状況(計 0件)

〔その他〕

ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1) 研究分担者

研究分担者氏名：加須屋誠

ローマ字氏名：KASUYA MAKOTO

所属研究機関名：京都市立芸術大学

部局名：芸術資源研究センター

職名：客員研究員

研究者番号(8桁)：60221876

研究分担者氏名：藤原重雄

ローマ字氏名：FUJIWARA SHIGEO

所属研究機関名：東京大学

部局名：史料編纂所

職名：准教授

研究者番号(8桁)：40313192

### (2) 研究協力者

研究協力者氏名：相澤正彦

ローマ字氏名：AIZAWA MASAHIKO

研究協力者氏名：水野僚子

ローマ字氏名：MIZUNO RYOKO

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。